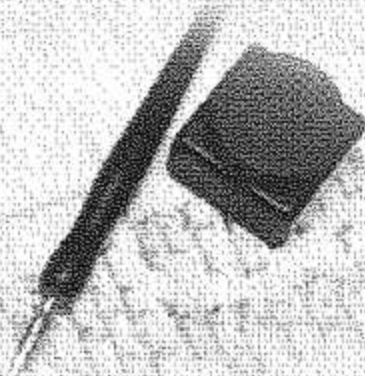


校長のひとり言



代表監督

昨年の夏、全国高校野球地方大会が盛り上がっている7月25日(金)の朝刊で「サッカー日本代表監督にアギーレ氏」の見出しが目に入った。「アギーレジャパン」の誕生である。記事は、アギーレ氏のコメントとして、「スピードや技術、持久力、組織力といった日本の長所を生かす、ザッケローニ前監督の志向は継承しつつ、試合運びや駆け引きを加味していく。」とあった。私は代表監督と日本サッカー協会に、代表選手の強化の併せサッカー関係者、サッカーファンに夢と希望を与えるような事業展開を期待した。

しかし、12月16日(火)の記事には、アギーレ監督が2011年のスペイン1部リーグの八百長疑惑について、同国の検察当局に告発されたとあった。本格的な捜査が始まり裁判所への出頭を求められる可能性が出てきたというのです。前日の15日には、2連覇を狙うH27.1.9開幕のアジア杯(豪州開催)に臨む代表メンバー23人を発表したのが、指揮できなくなることも考えられていた。最悪の場合、監督解任もある危機に直面していたのですが、年末年始の調整合宿も順調に進み、何とか大会に臨むことができた。この「碧雲通信」が届くころには、大会が終了し、多くのサッカーファンや専門家たちから講評されていると思います。

本題は、その7月のアギーレ代表監督就任に記事の別ページには、他国の代表監督の記事が載っていたことです。見出しは、「ベトナムサッカー代表監督に就任 三浦俊也(51)」である。記憶ある名前だったので興味津々で読んでみた。

三浦氏の学生時代は無名選手だったそうです。大学卒業後、岩手県の養護学校教諭になったが、サッカーがあきらめられず、指導者をめざし27歳でドイツへ行き、約6年間かけて指導法を習得された。帰国後はJリーグ監督の資格を取り、有名選手出身の監督が多いJリーグの中で、大宮(H16)と札幌(H19)をJ1に昇格させて存在感を示された。

三浦氏は、FIFAランキング129位と伸び悩む異国のベトナムからオファーを受けたのである。言葉も文化もよく知らない土地だったが、「未開拓なだけにやりがいがある」と引き受けられたそうです。不振が続けばクビもある世界。単身赴任で挑むサッカー途上国の躍進の後には、日本代表監督の就任を期待してみたい。ベトナムの地であきらめず夢を追い続ける三浦氏の活躍に注目したい。プチ情報以前は、日本を代表するチームを「競技名+日本代表」と呼び、応援するときは「ニッポン」と連呼していた。応援は今も同じである。最近では「ジャックジャパン」、「なでしこジャパン」、「侍ジャパン」、「クリスタルジャパン」、「さくらジャパン」など、愛称で呼ぶようになった。以前から、日本代表チームを「ジャパン」と呼び、その代表監督に就任していた人名にジャパンを付けて「〇〇〇ジャパン」と呼んでいた競技がある。それは、ラグビーフットボールである。